

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
北海道	旭川市立正和小学校	実生活とつながる学習を推進し、「活用する力」を高める実践的研究 ～身の回りの算数を窓口として～	1 成果 算数の学力向上には、計算練習の指導に偏ることなく児童が主体的に考えて学び、活用する力を高めることが大切であると考え、「活用する力」の向上を意図した取組を工夫した。活用重視の授業や活用問題プリントの作成、自作算数紙芝居の読み聞かせ等をし、算数の指導においても児童の心情や生活に寄り添うことの重要性を改めて実感した。 2 今後の課題 引き続き、児童の身の回りから素材を見付け興味や思考力を高める活用問題を作成するとともに、算数の苦手な子が難しい内容を理解していく物語を算数紙芝居にしたい。また、算数紙芝居をスライドにし校内放送等で発信することにより、児童の苦手意識を軽減するとともに算数への理解を深めたい。
北海道	札幌市立豊成養護学校	安全で楽しい給食指導を目指して ～食べる機能に応じた食形態と教職員の指導力向上に向けた取組から～	1. 研究の成果 ・誤嚥のリスク軽減と食べる機能の向上が期待できる。 ・評価基準の明確化が的確な実態把握や指導の方向性の共通認識に繋がる。 ・段階的かつ安定的に摂食指導について学ぶ機会を設定できる。 ・摂食指導の知識や技能を継承し、安全性や技術の向上を図ることできる。 2. 今後の課題 ・副食(中期食・後期食)の安定的な提供 ・中期食の調理方法の確立と対応可能なメニューの蓄積 ・食べる機能に障害のある児童生徒が学校で安全に教職員と経口摂取をするために必要な条件や過程など校内体制の構築 ・「実践事例の共有と検討」など新たな試みの成果と課題を踏まえた研修体制の確立
北海道	札幌市立美しが丘緑小学校	目標をもち、仲間のために役立つ子の育成 ～異学年でのふれあい活動の充実を図り、よりよい人間関係や生活を築く力を高める～	学校を「小さな社会」にし、目的意識と役割意識をしっかりとらせ、様々な集団活動を通して仲間意識・所属意識を高めていくことによって『目標をもち、仲間のために役立つ子』になる。学校は、同年齢での集団での学びを基本としているが、社会に出れば異年齢での集団が基本である。社会に通用する汎用的な資質・能力を育むためには、学校を「小さな社会」にすることが必要である。「小さな社会」とは、それぞれのメンバーに役割がある異年齢集団のことである。誰もがリーダーになる「場面リーダー」の考えをふれあい活動(異年齢集団活動)に取り入れ、1～6年生が様々な場面でリーダーシップやフォロアーシップを発揮して活動している。
山形	尾花沢市立立野小学校	「じぶん」と「なかま」で「こころ」を育む道徳の授業 ～多面的・多角的な思考を引き出す工夫～	「主体的に価値にかかわらせるため」の取り組みの成果として、自分に身近な問題や事例を取り入れ、自分事として課題を捉えさせることをめざしたことで、自分自身とのかかわりの中で道徳的な価値について考えさせることができた。また、自分の立場を明らかにして話し合いに取り組んだり、立場を変えて他者の立場で考えさせたりしたことで多面的な、多角的な思考につながった。 「見方・感じ方・考え方を広げるため」の取り組みでは、児童の理解を深める効果的な構造的板書・登場人物の心情を深くつかむ心情曲線や心情スケールの活用・多面的な考えを深める役割演技等で、児童の見方・考え方を効果的に広めることができた。また、議論の場で、教師が効果的な児童の意見のコーディネートを行うことにより、児童相互の考えを交流し、深めることができた。
山形	小国町立叶水中学校	極小規模校における生徒指導に関する一考察 ～「指示」から「問い」への転換と特色ある体験をおとして～	【成果と課題】 コロナ禍の令和2年度にあって、授業時数と学びの保障が大きな課題であった。その中で、教師側の一方的な詰め込み、教え込みにならずにしかも児童生徒に確かな学力を育むための「戦略づくり」と「実践」を学校研究として取り組んだ。その過程で、論文記載内容にある、「大人が変われば子どもも変わる(教師の指導観を変える)」と「自己決定と主体性」の視点を大事にして実践を展開した。成果(○)と課題(▲)は以下の通りです。 ○これまで復習を中心に取り組ませていた家庭学習を予習中心に切りかえた。ICTを予習に活用できるよう、ホームページに各教科で使用できるコンテンツを整理して取り組ませることで、家庭学習に主体的、意欲的に取り組む児童生徒が増えてきている。 ○中学校の長期休業中の課題選択制の効果検証を踏まえ、小学校高学年家庭学習課題の自己選択制にも波及させることができた。 ○予習をベースに本時の授業を展開することで、児童生徒のレディネスと関心意欲が高まり、授業進度を速めることができた。それにともなつて、体験や対話をもとにして進める場面にも十分に時間をかけることができた。 ▲成果を生んだ教師の自己変革を後戻りさせることなく、進化・発展させていくことが大きな課題である。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
山形	高島町立高島中学校	元気に登校したい、働きたい、統合大規模中学校をめざして～スケールメリットと一人ひとりに目を向けた取り組みをとおして～	研究主題の主要な研究成果(○:成果、▲:課題) ○不登校対策の「別室」経営を、カウンセリングによる「心理的な支援」と少人数授業による「学習支援」の2本柱で推進したことにより、生徒が元気になってきた。 ○別室設置により、完全不登校と欠席日数3桁生徒の減少、並びに別室を拠点としながら、教室復帰に向けた準備を進める生徒が増加した。 ○一週間の業務量を削減するため教育課程を見直したことで、時間外勤務時間の減少や教職員のゆとり、健康保持に効果が見られた。 ○生徒の下校時刻を早めて安全確保に努めたことや、登校日を増加して学習指導を継続的に行ったことは、保護者からの要望に応える形となった。 ▲見直しを図った教育課程のメリットを、更に実感できる取り組みを進めたい。
福島	伊達市立伊達中学校	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた表現力の育成	1 研究の成果 生徒が自分の考えを書いたり、発表したりする場面を各教科で工夫して実践することで、伝えたいことをはっきりさせて文章を書いたり、ノートにわかりやすくまとめたり、自分の考えをわかりやすく発表したりすることができるようになってきた。始めにノートやワークシートに書かせることで、相手にわかりやすく伝えたり発表したりすることにつながった。そして、書く力が向上し、表現力の育成にも効果が表れた。 2 今後の課題 表現力の育成には、生徒に考えさせる時間の確保が必要であり、長期的で地道な取組も不可欠である。限られた時間の中で、表現力を育成させるための効率的な方策を探ってきたい。
福島	会津若松市立鶴城小学校	いきいきと輝く自分をつくる子どもの育成 ～仲間と協働して高め合う 主体的・対話的で深い学び～	○ 確かな教材理解に基づいた授業構想を生かし、対話による協働的・互恵的な学びによって目指す姿が表出し、深い学び合いを実現させることができた。親和的な関係が構築され、自己有用感・所属感が高まった。 ○ 子どもの思いに寄り添った学び合いを基盤としながら、みどりによる個の把握を生かして、本時で達成すべき目標に向けた瞬時のコーディネートの手応えを実感することができた。 ○ 「深い学び」に向かう教師は、子どもの思いをみどり、教材のねらいと重ね、「立ち止まりどころ」を意識して授業を構築しようとする意識が高い。日々の授業の中で、温度差のない取り組みが維持できるように、今後とも教材研究の時間や研修の機会の確保を図ってきたい。
茨城	石岡市立東成井小学校	地域と共に歩み続ける学校づくりの推進 ～学校ボランティアの発掘及び活用の恒常化に係る取組を通して～	1 研究の成果 ○児童アンケートや学校アンケートで「東成井小を誇りに思う。」など、肯定的に回答する児童、保護者が9割を超え、学校や地域への所属感が児童、保護者共に高まった。 ○WITHコロナに係る新しい生活様式に対応したボランティア活動を展開できた。 ○延べ200名以上の保護者、地域住民がボランティアとして学校に入った。 ○地域に任せたコーディネートの役割が機能し始め、学校ボランティアの活動が恒常的に継続される体制を整えることができた。 2 今後の課題 (1) ボランティアコーディネーターを中核としたスクールボランティア体制づくりについての市教育委員会への進言 (2) 市を巻き込んだ学校運営協議会の設置及び運営 (3) ボランティアコーディネーターの育成機能の強化
茨城	つくば市立みどりの学園義務教育学校	プログラミングツールを活用した探求的問題解決学習の実践 ～つくばスタイル科における主体的で対話的な学習活動の支援について～	総合的な学習の時間に「環境問題の解決に向けて自分にできることを考えよう」という学習課題を設定、プログラミングツールを活用し様々な環境問題の解決方法を考えた。Scratchやmicro:bit、Robohon、Pepper、ドローン、Minecraftなどの特徴を理解し活用することで、誰でもすぐ問題解決に取り組めることがわかった。協働しやすく、複数の考えを組み合わせ新しい考えを多く創造できたことが成果としてあげられる。今後はSDGsの17の達成目標についてもプログラミングツールを活用し、探求的に問題解決に取り組んでいきたい。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
群馬	太田市立宝泉東小学校	地域の偉人から学び、未来をたくましく生きる児童の育成 ～地域かるたを教材にした教科横断的な学習を通して～	<p>○群馬県ならではの地域かるたから、児童に気づかせたい先人(偉人)について、教科横断的な学習を3年生と6年生で検証した結果、発達の段階に応じて、興味関心を持ち、追究する喜びと学び方を体験させることができた。</p> <p>○「中島知久平さんは、酒もタバコもやらなかったそうだよ。お父さんもほどほどにしてね。」と家族のだんらんの中で、学習したことを話題に出す児童もいた。</p> <p>○児童の報告文を学校ブログに掲載し、それを見た地域の人からも、「ふるさとの偉人を取り上げた学習はうれしいですね。」「ふるさとを好きになる子供たちを今後も育ててほしい。」等の言葉をいただいた。</p> <p>○今後も、学校の歴史をひもとき、愛校心や地域に根ざした教育の教材のヒントを発掘していきたい。</p>
群馬	榛東村立榛東中学校	教職員の職能成長を促す問題解決的な取組に関する一考察 ～臨時休校下における、家庭授業の実現を通して～	<p>本研究は、臨時休業下における、家庭授業の実現に向けた問題解決的な取組の事例を基に、教職員の職能成長を促す学校運営組織の機能について考察し、三つの要素を導き出した。これは、学校の運営組織を活性化し、創造的な教育活動を展開できるようにするための学校体質改善の取組であり、不断の取組として継続すべきものとする。</p> <p>学校再開後には、コロナ禍での安全を確保しつつ、ICT機器の利活用と対話を融合した学びの創出に向け、生徒の学ぶ姿や発話に着目した授業研究を行い、授業改革へと昇華、継続している。</p>
埼玉	ふじみ野市立大井西中学校	地域とともに歩む大井西中学校を目指して ～1本のケヤキの伐採を通して培う地域との強い絆～	<p>1 学校を核とした地域づくりの推進 コロナウイルス感染拡大防止の中で、限られた保護者や教職員で取り組んだ事業であったが、教職員や保護者、地域の方々の絆を深めることができた。その結果、地域が抱える課題や問題を学校と地域が一体となって解決した「ケヤキの伐採」を通して地域の方々からの信頼を得ることができ、コミュニティースクールとして期待される存在になった。</p> <p>2 環境教育の推進 ケヤキの伐採に参加できなかった生徒たちも、落ち葉掃きで苦勞していたケヤキが伐採され、校内の中庭にイスとテーブルのセットとして活用されている。このことで、生徒には「生命及び自然を尊重する心」の基盤を育むことができた。さらに、幹の根元は、乾燥させ餅つき用の臼に加工し、地域の2つの自治会に寄贈する予定となっている。</p>
埼玉	川口市立安行小学校	わたしたちの未来とロボット ～プログラミング教育への発展をめざして～	<p>「わたしたちの未来とロボット」の学習を通して、子どもたちに論理的思考力、自発的な学習能力、問題解決力を育てることができました。今後、この学習をプログラミング教育という観点から全体計画に位置付け直し、総合的な学習の時間をもとより理科と関連させながら、その充実を図っていきます。「ロボットづくり」の問題解決学習を、コンピュータを使わないアンプラグドのプログラミング教育と位置づけ、「鉛筆プログラマ」というマイコンボードを使ったプログラミング教育へ発展させます。今年度は4年生が総合で「鉛筆プログラマ」を導入して、児童がプログラミングをすることで、豆電球を点滅させ、モーターカーを動かしました。さらに高学年では、5年理科電磁石、6年理科コンデンサーカーという教材を使っのプログラミング学習を積み上げていく予定です。</p>
埼玉	所沢市立泉小学校	豊かな心を育む教育の推進 ～学校・家庭・地域が一体となって取り組む教育活動の充実～	<p>1 学校、教職員の道徳教育に対する意識の向上 若手とベテランが、一緒になって、「本校の児童の道徳教育がいかにあるべきか」を考えられてきたことは重要である。特に昨年度からは、「命の大切さ」について学年の発達段階に応じて指導することができたことは大きい。</p> <p>2 道徳教育に関わる教育活動の充実 道徳教育の充実には、人と関わりは欠かせない。人と関わる活動が意図的、計画的に設けられ、先生、友達、異学年の児童、保護者や地域から、学んだり感じたりする機会も多い。これらの教育活動が整備充実してきた。</p> <p>3 家庭や地域の学校への協力 保護者や地域の方々の理解や協力を得続けるには、「つながり」を大事にすることが欠かせない。保護者や地域の人々と一緒になって取り組んできたことは大きい。</p>

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	東松山市立松山第二小学校	特別の教科「道徳」考へ、議論する道徳」の授業を生かした評価法の研究 ～「指導と評価の一体化」について～	職員研修や研究授業を通して、授業づくりの観点や幅広い知識を得られた。道徳の授業を計画的に積み上げ、全教育活動を通して道徳教育の充実へと進めることができた。 <具体的な成果> ①授業者が明確な指導観をもつことで、道徳科の特質を踏まえながら、ねらいに即した指導方法や発問構成を工夫し、多様な授業を展開することができた。 ②ペアや小グループでの話し合い、視覚化ツールを活用しての話し合いを効果的に取り入れることで、児童が多面的な見方に気付くことができた。 ③「指導と評価の一体化」に向け、研究協議で話し合いを重ねたことで、児童の考えの変遷や価値のとらえ方の見取りについて研修を進めることができた。 ④教材・教具が充実し、道徳の授業が身近なものとなった。(週1回、年35時間の確保、評価の確実性など) <今後の課題> ①1つの指導法のみではなく、様々なアプローチでねらいとする価値に迫っていく必要がある。そのために、更に実践を積み、指導経験の蓄積を進めていくことが必要である。 ②ねらいとする価値に迫るため、児童の発達段階や実態に応じて、主発問をどこに設定するか、どのような手立てを講じることができるか、今後も継続的に研究を続ける必要がある。
埼玉	秩父市立高篠小学校	学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営 ～学校や地域を大切に、誇り高き子どもを育てるために～	○学校・学年・学級が一貫した学校経営に努め、経営ビジョンに基づく具体的な17の重点目標とその評価指標(目標値)を明確にした学校自己評価を実施したことにより、目標を共通理解でき、教職員の意欲が高まり教育活動が充実したものとなった。 ○児童の満足度を具体的な評価指標として取り組んだことにより、人権意識を高めたり、学級への所属感を高めたりする活動が充実し、児童の満足度もアップし、相乗効果を上げることができた。 ○あいさつ運動や外部講師による学習、校外へ出かけた学習活動を行ったりすることで、地域に見守られている意識が高まったり、子どもたちのよさが認められ、自信をもったりすることができ、自尊感情や自己有用感について成果が表れた。
埼玉	本庄市立仁手小学校	異校種間の学びの連続性を重視した取組の推進 ～保幼小中連携～	成果 ○小学生(低学年)にとっては、自分よりも年下の園児とかかわることによって、学習意欲が大変高まりました。普段が一番下の学年でしてもらっていることが多い1年生も、年下の子どもたちには、自慢げに、活動していました。傍らで見て、成長したなあと感心しました。 ○中学生との関わりは、自分も中学生になったらこんな活動をするんだという見通しを得ることができました。 ○部活動交流では、小学生はさすが中学生だなあと憧れの眼差しを送っていました。 ○やがて進学する、中学校との連携が多く実施されることで、中学校生活に対する学習意欲、見通し、楽しみ、安心感が大きく高揚しました。
埼玉	熊谷市立妻沼小学校	知・徳・体のバランスのとれた児童の育成 ～まじめ、まめ、まろくを実践する心豊かなめぬまっ子の育成～	(1)研究の成果 ・多様な思考ツールによる道徳授業を行ったことで、児童は自分なりに納得できる考えを持てるようになった。 ・話し合いのさせ方を工夫したことで、多様な価値観に触れ、それぞれの児童が持つ道徳的価値に対する考えの深まりが見られた。 ・本校で行った様々な授業の展開を分類・整理することで、教材に合った授業展開を選択しやすくなった。 (2)今後の課題 ・ワークシートや振り返りなどの記述で児童の変容をみとるだけでなく、生活場面での行動の変化を評価できるように教師の観察する力を高め、記録を残していく。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	行田市立下忍小学校	自分を見つめ、よりよく生きようとする子どもの育成(道徳科) ～考え、話し合い、主体的に学ぶ授業を目指して～	1 本年度の成果 本年度の成果とは、昨年度までの6か年にわたる道徳科研究が新学習指導要領全面実施の今年、授業実践でどのように活かされたかということである。その成果として次の2点が挙げられる。 ①様々な制限がかかったコロナ禍の授業において、道徳科で培ってきた子どもたちへの声かけの工夫を他教科でも行うことにより授業をアクティブ化でき、主体的・対話的で深い学びに繋がる授業展開ができたこと。 ②スピード感を持って整備が進むGIGAスクール構想への対応で最も重要なことは、プログラミング教育や授業でのタブレット活用のハードルを下げることであったが、自主研究で意識改革も進み本校教職員は前向きに捉えられていたこと。 2 今後の課題 年度内の答申が見込まれる『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』等、いくらスピード感を持って矢継ぎ早に様々な指針が出されたとしても、子どもたちを直接指導するのは学校教育の場であり、我々教職員にかかっている。 「行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画」を基に今後、市内の学校が統廃合され、数年先には市内唯一の小規模校となる本校。未来に生きる子どもたちを、今、学校で育てているのがわたし達の仕事であり使命であるという気概を持ち、下忍の子の育成のため「下忍の子の今日のために、今日を下忍の子のために」学校力を如何に高められるかが課題と考える。
埼玉	八潮市立大瀬小学校	主体的に聴いて、考えて、つながる児童の育成 ～伝え合う力や言葉の力を育み、生かす授業づくり～	児童主体の授業づくりを行った結果、聴く力と話し合いに参加する意欲が向上したとともに、話し合っている内容に沿って持続させるという意識が定着した。主観的な自己主張のぶつけ合いに陥らず、客観的に会話や文章の要点をつかむことができる児童が増えた。 具体的な例として、三角ロジックについては、結論から言うことで話し合いがスムーズになり、友達の話聞き、教科書の根拠を確認する動きが追加され、「聴く力」が高まった。ハンドサインについては、クラス全員が参加しやすく、自分の考えを伝える意欲が向上したことで授業の活性化につながり、児童主体の授業に変容した。また、学校全体として、めあてではなく課題への移行が進んだことは、目的意識の持続化につながった。
千葉	匝瑳市立豊栄小学校	思いやりの心をもち、粘り強く、力いっぱい努力しようとする児童の育成 ～道徳的実践意欲と態度を高める授業をめざして～	【成果】 ○昨年度、作成した道徳アンケート調査を継続して行ったことで、本校の児童の実態及び変容を把握することができた。 ○調査結果の考察を行うことで、教師自身の指導の反省に生かすことができた。 ○今年度は仮説を二つに分けたことで、より具体的に授業検証を行うことができた。特に教材提示の工夫をした学年が多く、資料を事前に読んでおくことで、話し合いの時間を確保したり、映像資料で、内容理解を図ったりすることができた。 【課題】 ●感染症対策のために検証できない部分があった。特に場の工夫ができず、全員が前を向いての授業となってしまう、児童対教師の問一答になっているように感じるが多かった。友達同士の表情を見合うことができるようになれば、多面的・多角的な考えがさらに深まるのではないかと考える。 ●感染症対策は今後も続くことが予想されるため、ICTの活用等を含めた新たな対話の在り方を構築していきたい。
千葉	成田市立公津の杜小学校	コロナ禍において学校生活の充実をめざす取り組み・試みの一事例	【研究の成果・課題】 ・「アマビエチェック」により、教職員と児童自身がともに感染防止への意識を高めることができた。 ・これまでにない発想で学校行事を計画・実施したことで、今後も継続できる新たな行事運営の方法を生み出すことができた。 ・児童の発想による“この状況だからこそできる取り組み(医療従事者へ、励ましと俺のメッセージを届ける)”をしたことで、児童の達成感と自己有用感を高めることができた。 ・アマビエチェックの合格ラインをクリアした後の行動様式を子どもたちと一緒に作りあげ、WITHコロナ下での充実した学校生活を協働して実現させていきたい。
千葉	流山市立流山小学校	協働の素地を養う表現活動の工夫 ～算数学習を通して～	研究の成果 ・算数学習の進め方や話し合いの進め方を教員が共通理解して授業ができ、児童が学習の流れがよくわかって意欲的に学習できた。 ・グループでの話し合いを重視したことで、児童同士がわからないことを聞き合い、苦手感を持つ児童の意欲を高められた。 ・全国学力学習調査(6年)や学力テストにおいて、全学年で算数科に伸びが見られた。 今後の課題 ・算数科での協働的な学びを他教科に生かすとともに、個別最適化な学びを模索していく。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	千葉市立葛城中学校	生徒が主体的に自己の生き方を考え自己表現を図るためのキャリア教育の在り方 ～特別活動、総合的な学習の時間における実践を通して～	キャリア教育を推進するにあたり意識したことは、「どの学校でも継続して取り組めるキャリア教育」である。既存の教育活動をキャリア教育の視点でカリキュラムマネジメントし、キャリア教育ノートやキャリアパスポートの作成等、修正とスリム化を図りながらその推進に向けて学習環境を整備したことは大きな成果である。その中でも、キャリア発達についての達成レベルを表にまとめた「キャリア発達目標」は、基礎的・汎用的能力のルーブリックであり、今後のキャリア教育の目標設定や評価を考える上でも非常に重要となる。また、生徒自身が努力目標を決めて学習に取り組む態度や姿勢を身に付けることにもつながると考える。 今後は、キャリアパスポートを自己の成長をみとる資料やキャリア教育の評価資料として、より積極的に活用していくことが課題である。また、キャリアカウンセリングを行う際にも積極的に活用することで、生徒の生き方への視野を広げたり、考えを深めたりすることにもつながると考える。 キャリア教育の推進には、教員一人ひとりのキャリア教育に対する意識が大きく影響する。教員向けのガイダンスや学習会を積極的に実施し、キャリア教育の意義を十分理解して指導にあたる必要がある。
千葉	千葉県立柏の葉高等学校	主体的な学びを引き出すための大学や地域との連携の活用	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県初の情報に関する専門学科「情報理数科」において、学力向上支援、大学・企業・地域連携、情報力の実践を柱として魅力ある学科づくりに取り組んだ。 生徒の行動指標となる「学科訓」を作成し、主体的に学習に取り組む態度の育成を図った。 「高校3年＋大学4年の7年間を見通したスペシャリストの育成」を掲げ、外部連携を積極的に実施し「主体的に取り組む力」の育成に力を入れた。 地域での活動やコンテスト等への積極的な参加を促し、「どのように学ぶか」を考えさせる場とした。 問題解決の「問題の発見・認識」の場面で、外部連携を通して専門家と積極的に関わった生徒は、課題を見つけて解決したい気持ちが増加する傾向があった。
東京	東京都立保谷高等学校	生徒が学ぶ意義を見つけ行動し始める実践に関する報告	主に1学年の「総合的な探究の時間」の実践で次のような成果を上げた。 ①生徒たちは実社会との繋がりを強く感じ、学ぶ意義について各自の考えを深めることができた。学ぶことや知ることについての意識は、学校の授業を受ける姿勢にも大きく結び付いた。コロナ禍の中でも社会の第一線で活躍する職業人にZOOMで講演して頂き、現場における正直な生の声を聴けた効果が大きい。 ②生徒の自己肯定感を育み、企画力や行動力を身に付けさせることができた。生徒がSDGsの中から解決したい課題を班ごとに設定し、自分たちの先駆者に当たる職業人に生徒自らアポイントを取って実際に話を聞きに行けたことも、生徒の問題解決力の育成に結び付いた。
東京	葛飾区立北野小学校	自然を見つめ学びにつなげる北野の子 ～思考力・判断力・表現力を育てる理科・生活科の指導の工夫～	<p>【研究の概要】</p> <p>1 目指す児童の姿をもとにした指導の工夫。 2 理科・生活科の問題解決のプロセスを重視した授業作り 思考力・判断力・表現力の育成を図るための「学びのプロセス」の設定。 3 教員同士の学びあいの活性化</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業一単位時間のゴールが明確にしたことで、「学びのプロセス」(問題解決の過程)を意識した指導が行えた。(成果) 児童自らが学習を振り返ることができる工夫や、板書計画、ノート指導についての検討。(課題) 生活科・理科を中心としたカリキュラムマネジメントについての検討。(課題) <p>◎葛飾区教育委員会研究指定校として令和4年1月28日研究発表予定。</p>
神奈川	茅ヶ崎市立円蔵小学校	自己有用感の育成 ～「認められて育つ」環境づくり～	<p>〈研究の成果〉</p> <p>自己肯定感に関する児童アンケートを6月、12月に実施した。各質問項目について肯定的な回答が多く、また6月→12月の数値が上がっている。これは、学校教育において「たての関係、よこの関係、ななめの関係」を作る意図的・具体的なしくみを仕掛け、一人一人の児童を様々な人間の目で見えて関わり、「認められて育つ」土壌づくりを行った結果、それが児童の自己有用感の育成につながり、結果として自己肯定感が高まったことが大きな要因の一つではないかと分析している。</p> <p>〈今後の課題〉</p> <p>新型コロナウイルス感染防止のため従来通りの交流ができない現在、どういう形や内容で「たての関係、よこの関係、ななめの関係」を作っていくのかを模索している。</p>

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川	海老名市立今泉小学校	進んで取り組み、互いに学びあう児童をめざして ～笑顔あふれる、みんなの学校～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的な指導と評価を実現できる6つの授業過程を確立できた。 指導経験等に合わせた研修を行うための6つの段階期を設定することができた。 学校全体で同じ目標に向かって研修を重ねることで、同僚性を高めることができた 児童意識調査の肯定回答の割合が上昇し、外国語が好きな児童が増えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級を担当する教員に対する研修内容とその方法の開発 教員の基本的な英語運用能力を向上させる研修機会の確保 確立した6つの授業過程外にある、外国語の文化等を感じさせる実践の更なる収集 魅力的で円滑な中学校との接続
神奈川	秦野市立渋沢小学校	考えたことを発信し、つなぎ合わせて、学びを深められる子をめざして ～算数科の授業づくりを通して～	<p>学年ごとに研究授業に向けて、様々な手立てや取り組みについて話し合い、実践することができた。ノート指導や板書計画、発問や支援の方法等を考え、提案をし、参観後に学年に取り入れられそうな手立て、アイデアを考えるきっかけにもなった。授業後の研究協議では、成果と課題について少人数で話し合うことで、より多くの意見を交流し、考えることができた。そこから、研究を深めていきたいことを話し合うなど、意欲を高めることができた。また、目指す子ども像が決まったことで、テーマをより具体的に捉えることができた。指導観を一部統一したことにより、学年で指導したいことが分かりやすくなり、指導案検討の段階から指導主事に助言をいただく機会も設け、より広く、深く考えることができた。さらに、「めあて・まとめ・ふりかえり」など1時間の授業の流れが浸透し、「フリブリ」などを使い、基礎基本の習熟を図ったことにより、子どもが「できた」という実感を得られたことで増えたと思われることである。</p> <p>今後の課題としては、研究協議や講師の話から出された意見をもとに、全校で取り組むべきことをより明確化していく必要がある。また、児童の実態にあった「フリブリ」や「算数コーナー」を用意し、児童の意欲をさらに高める工夫していきたい。児童アンケート結果にある、発言に苦手意識がある児童への具体的な手立ても重要な課題であると考え。</p>
神奈川	相模原市陽光台小学校	思いや考えを伝え合い、深め合うことのできる子の育成 ～対話的な活動を通して読む力を付ける授業作り～	<p>①ねらいを明確にした授業構想 ②見通しをもたせる工夫 ③発問の精選 ④振り返りの工夫 ⑤意味のある対話的活動</p> <p>新学習指導要領を読み解き、ねらいを明確化した授業を組み立てた。児童と共に学習計画を立てたことで見通しが持て、主体的な学びに繋がった。発問の一語一語に拘り精選したことで児童の思考を深めることができた。振り返りの視点を与えることで、児童に自分の学びを自覚させるような振り返りができた。意図的な対話の設定については、テーマ、人数、メンバーなどの工夫ができた。</p> <p>＜今後に向けて＞ 本研究「ねらいを明確にすること」「見通しと振り返り」の成果を活かし、児童が学びを実感する授業をめざしていきたい。</p>
神奈川	三浦市立三崎小学校	「学内体力」を育む ～地域素材の教材化を通して～	<p>今回の助成にかかわっていただいた多くの方に感謝申し上げる。子どもたちの学習環境を整えることは、子どもたちの学習意欲の向上につながる。直接触れるものはもちろん、目に入るもの、感じるもの、子どもたちを取り巻く環境はさまざまである。その中でも、子どもたちが学校生活を営む中で長時間触れているものは机と椅子である。身長や体重に適した机と椅子を準備することで姿勢が整い、子どもたちの学習意欲、学習効率も確実に高まる。今回の助成により、6年生用に椅子を17脚整備させていただいた。卒業を目前に控えた6年生が小学校での学校生活を振り返りながらより意欲的に学習し、その経験を活かしながら活躍することを願っている。</p>
神奈川	川崎市立渡田中学校	新学習要領全面実施に向けて生活に生きる美術教育 ～基礎・基本を大切に資質・能力の育成～	<p>本研究を推進していくうえでは、生徒一人一人が個を生かしながら生活の中の美術に関心を持ち、美術を生活に生かしながら生活を明るく豊かにしていく力を身につけさせていきたいと考え実践してきました。授業を改善し深めていこうと考え、7つの視点を設けて分析し、指導実践を試みてきました。実践を通し、生徒の制作意欲をかき立て、豊かな表現力や新鮮な発想を生み出すことで、日常の身の回りのものの多くが、美術と関係していることに気づかせることができました。今後、実践研究を繰り返す中で、生徒一人一人がゆとりをもってその基礎となる創造活動の能力を伸ばし、喜びと自信をもてるような学習の展開をさらに推し進めていきたい所存です。</p>

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川県	横浜市立万騎が原中学校	「社会に開かれた学校」を目指して ～地域の人的資源を活用した社会との連携～	<p>昨今の学校教育に関して、生徒の一人一人の事情や特性に配慮したきめ細やかな支援が求められることが多くなっている。</p> <p>このような中で、学校教育においては子供たちが地域の様々な人や社会のつながりの中で学ぶことが、子供たちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になっていくと考える。</p> <p>特に「実践(1)」においては、講師の具体的な行動技術や行動事例、考え方を学習・模倣する機会や対象となっている。いわゆる「お手本となる人物」で、「あのようになりたい」「あのよう考えていこう」と思う結果が得られていることが子供の感想文からもわかる。また、ロールモデルとなる人物が子供に身近であるほど、成長に重要な役割を果たせる。さらに、子供が自分より能力の高い人が存在することに気付く環境に身を置くことで、刺激を受け成長の力となる。</p> <p>また、「実践(2)(3)(4)」においては、その分野の専門家やプロの方のお話を子供が聞き、新たな気づきや理解を深め、自分の生き方を考える機会となったことが子供の感想文からわかる。さらに、子供が自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つためにも、こうした社会と連携・協働した教育活動を「社会に開かれた教育課程」として位置づけ、組織的に推進していきたい。</p>
神奈川県	小田原市立白山中学校	自ら考え、自ら学ぶ力を育成する授業の工夫と実践 ～生徒を主体とした授業改善のための3方向からのApproach～	<p>令和2年度の校内研究は、感染症拡大防止対策をしながら「主体的・対話的な深い学び」をいかに実現するかという大きな課題をもったスタートだった。例年のような研究会の開催は難しいかもしれないけれど、そのようなときだからこそ、校内の職員同士で授業づくりについて語り合う場面を多く持ちたいという願いを込めて、副主題を「授業について語り合おう」とした。</p> <p>今年度の最大の成果は、いつも全職員が参加して、計画通りに研究会や研修会を開催できたことだろう。11月には早稲田大学の小林宏己教授に来校いただき、研究授業を行うことができた。生徒の交流の場面では、間隔を開けた少人数のグループ構成や、ホワイトボードを活用した意見交流などの工夫の試みがされていた。小林教授からは、「対話的な授業」には、「教材との対話」・「他者(友だち)との対話」・「自己との対話」の三つの対話あることを挙げ、常にこの三つの対話を意識した授業づくりが求められるとの講評をいただいた。</p>
新潟県	柏崎市立田尻小学校	どの子も「おもしろい」と実感できる体育科学習 ～子どもの課題意識をつなげる単元づくりを通して～	<p>体育科における教科としての特性や子どもの感じる「おもしろさ」を基盤とした資質・能力の獲得として、「課題解決に向かい、自ら試し、思考する力」「課題を協働的に乗り越えようとする力」の育成を目指し研究を行った。成果として、児童への学習の振り返りアンケートから、「体育が楽しい」「運動することがおもしろい」など、肯定的回答が80%を超えるという結果が得られた。</p> <p>「おもしろい＝fun,interest」の実感が、体育に対する肯定的感情や自尊感情を高めることが明らかになった。このような感情や学習経験の積み重ねが、将来の豊かなスポーツライフへとつながると考える。</p> <p>一方で、教師の単元構想力、子どもの学びを見取る力をさらに伸ばすことが、今後の課題である。「深い学び」のイメージを授業づくりの枠組みとして他の教科・活動でも活用すると共に、子どもの課題意識をつなぐ主体的な学びの創出により、資質・能力の育成に一層取り組んでいく。</p>
新潟県	胎内市立胎内小学校	自分の考えをもち、分かりやすく伝え合う子どもの育成を目指して ～胎内市授業スタンダードの活用に着目して～	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの思考が焦点化するような課題を提示したことはよかった。既習事項とのズレが生まれる課題を提示することによって、意欲的に子どもが学習する姿が見られた。 ○学習意欲を高めていく発問の仕方が工夫できていた。意欲を高めながら「とらえる」の過程をレベルアップできてきたことはよかった。 ○板書やまなボードなど、考えの可視化をするための学習ツールを有効に活用して、お互いの考えが分かるようにした。それにより話し合いの視点が明確になり、活発な話し合いができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ▲「焦点化する」を、どのような手立てを加えて焦点化していくのかを考える必要がある。既習事項や、前時とのズレが、ねらい達成のためにどうつながるか、子どもたちとはっきりとさせたり、提示する問題や、図形などを吟味したりする必要がある。 ▲教師のゆきぶりは、ねらいに直結するタイミングが大切であり、どこで入れるか検討が必要である。 ▲学び合う過程で、自分の考えを伝えると安心してしまい、相手にさらに確かめ合うことなく話し合いが終わることが多いので、相手の考えの根拠を聞くようにしていく。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
新潟	新潟市立宮浦中学校	生徒の心の成長を蓄積できる「道徳ノート」の作成 ～深化した道徳的価値で自己を見つめる「振り返り」の充実を目指して～	研究の成果 「道徳的価値の理解」、もしくは「道徳的価値の深化」がなければ、道徳の授業とは言えない。対話的な学びを通して創出され深化した「道徳的価値」に対して、「これまでの自分」「これからの自分」を振り返ることが、道徳では重要である。ここが授業の核心部である。「道徳ノート」はこの流れを可視化し、ポートフォリとして蓄積させたいと考え作成したものである。心情の吐露があふれる「道徳ノート」は、生徒にとっても授業者にとっても宝物である。この素晴らしい姿を、担任として「評価」に記したい。実際に活用してみて、教職員の評価も非常に高く活用性の高いノートとなった。今後も生徒の健やかな心の成長を願って、宝物となるようなあたたかいノートにしていきたい。
新潟	新発田市立東中学校	希望や目標を持ち、よりよく生きる力を育む学級活動 ～クラスミーティングでの話し合いを活動を通して～	<研究の成果> ・生徒の「自己有用感」の高まり 「自分たちの課題を自分たちで解決することができた」という体験を積み重ねることで、生徒の「自己有用感」が育ち、主体性、また、学級集団への所属意識は高まっている。生徒アンケート「自分たちの課題を自分たちで解決することができた」への肯定的な回答は約90%であり、非常に高い。 ・生徒の思考力・判断力・表現力の向上 話し合い活動をとおして、お互いの意見を練り上げること、5W1Hの視点で整理すること、等を意識できる生徒が増えている。「確かな力」として身に付けさせるために、学校の全ての教育活動をとおして、共通した指導にあたるようにして行く。
富山	高岡市立太田小学校	豊かに関わりながら、主体的に表現していく子供の育成 ～全校で取り組む音楽活動を通して～	【成果】 ・全校体制で音楽活動に取り組むことで、ベテラン教員から若手教員へ指導技術の継承が行われ、学校全体の指導力向上につながったこと。 ・コロナ禍にあっても、全教職員が同じ目標をもつことで、分散型音楽集会等の工夫が生まれ持続可能な音楽家教育の推進につながったこと。 ・学習参観に「本校の音楽活動の歩み」の動画を上映したり、ホームページ上で紹介したりすることで、保護者や地域住民の理解と協力が深まったこと。 【今後の課題】 ・学習活動に制限がある状況であっても、歌唱指導やリコーダー・鍵盤ハーモニカ等の合奏指導を工夫し、音楽活動を充実させること。
富山	富山県立富山工業高等学校	リフト付き買物カートの開発 ～富山県発明とくふう展参加を通してのものづくり～	工学研究部では、授業で学んだ機械加工や電子制御等の技術を生かして、毎年研究作品を製作している。この作品を「発明とくふう展」に出品することで、製作意欲が高まり、以下のような教育効果が期待できる。 ①設計から製作、組立や調整等の一連の製作過程を実践することで、工業に関する知識や技術の定着が図れる。 ②生徒が自ら考察を深め、アイデアを実現できるような環境を与えることで、創造性に富んだ発想の育成が図れる。 ③部品製作から組立などを分担し、互いの進捗状況を考えながら製作に取り組むことで、作業の効率化とコミュニケーション能力の向上が図れる。 ④安全に対する意識や資格の取得に対する意欲が向上する。
長野	塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校	ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる生徒の育成 ～「アントレプレナー学習」と地域貢献型生徒会による「夢プロジェクト」の実践～	本校の特色ある活動である「アントレプレナー学習」と「夢プロジェクト」の実践では、コロナ禍にあっても学びを止めない生徒の姿があった。地域の一員として自分たちに何ができるかを問い続けることが、手作りマスク、コロナ予防啓発ポスターや交通安全看板等の製作、駅前での募金活動などにつながった。生徒たちは今までにない新たな視点をもって地域貢献活動を進め、今年度の成果となった。 また、両小野PRキャラクター「うとう」は、ゆるキャラグランプリに出場し全国37位という結果を得た。過年度に生まれた生徒のアイデアが今年度の学習につながり、現在は多くの人に親しまれるキャラクターに成長している。今後も「うとう」を通して、地域と共に自分たちができることを追究していくことができると考えられる。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長野	佐久市立佐久平浅間小学校	「ちがいをチカラに変える学校づくり」を実現するカリキュラムマネジメントの研究 ～子ども・教師・地域の3者の違いを活かし、子どもの資質・能力を伸長するカリキュラム・校内システムの開発～	これからの学校は、一人一人の子どもに最適化された学びを提供していく責務がある。そのため、日々の学びの中で、自ら問いをたて、多くの情報や仲間と協働しながら問題を解決していくことのできる資質・能力や人間性を育てる授業と学校づくりが求められる。今年度、本校では、ベテランの教員をスーパーバイザーとして、若手教員の持ち味を活かしながら授業力を向上させる取り組みを行った。また、『SDC(Self Development Class)』という「子ども自らが、自分のよさや能力を伸ばせる教室」の開設を試みて、帰国子女児童が語彙力を生かして学ぶこと、プログラミングが得意な児童が、生活に役立つモノを生み出すことを通して、専門的に子どもの資質・能力を伸ばす機会を設け実践した。
岐阜	岐阜市立岐阜小学校	保護者OBが核となって企画・運営する「サマースクール」 ～岐阜小コミュニティ・スクール「学び会」の実践の記録～	○「蕎麦打ち」や「全身での落書き」など、学校の教育課程では体験できない活動から、子供たちは多くのことを学ぶことができた。 ○コミュニティ・ティーチャーのもつ専門的な知識・技能によって、子供たちの学びの質が深まった。 ○“その道のエキスパート”から直接手解きをいただける経験から、新鮮な驚きや感動を味わうことができた。 ○今後の目標や将来の夢につながる感想もあり、「キャリア教育」とでも有意義な取組であった。 ○子供たちを介し「サマースクール」に関わったスタッフの一人一人が、楽しみながら活動する姿が多く見られた。 ▲岐阜小学校の子供たちに「つきたい力」や「願う姿」を共有し、主体的・能動的に取り組む児童の育成に努めていきたい。
岐阜	岐阜県立岐阜工業高等学校	BYODを活用した反転授業の実践とICT機器の活用授業研究 ～情報通信端末を使った主体的でシームレスに学べる指導法の研究～	研究の成果 ・BYODの活用により、生徒が主体的に授業に取り組むことができた ・従前の教授型授業から、グループによる教え合い学習を導入した ・生徒同士の教え合いが増え、コミュニケーション能力の向上が見られた ・反転授業とメールによる細かな指導により、基礎基本の定着ができた ・助成金で購入したプリンタ、スピーカを教室に設置し、教室・実習室・自宅等を問わずシームレスに学習に取り組める環境を整備した ・公開授業を実施し、多くの教職員に活用事例を見ていただいた 今後の課題 ・タブレット端末とBYODを併用し、より効果的な授業スタイルを研究する ・活用事例の情報展開を行い、他の教職員への横展開を行う ・ICT機器利用に伴い、利用マナー・モラルの向上を指導する
静岡	富士市立吉永第二小学校	Withコロナ時代の新しい学校行事(運動会代替行事)における児童の達成感・充実感を求めて ～運動会代替行事を通した学校教育目標へのアプローチ～	・Withコロナ時代に対応するための教育課程大幅変更を余儀なくされた今年度、これまで当たり前のように実施してきた体育的行事である運動会の実施方法を見直し改善することにより、その目的に見合った本来めざすべき教育活動の重要性を学校だけでなく、保護者、地域も実感できたと言える。 ・さまざまな制約やしびりが生じる中でも、学校教育目標の実現に向けて「何ができるか」「何が大切であるか」という根本を、POSITIVEかつCREATIVEな思考で追及していくことにより、学びを十分に継続していけることが分かった。その結果、目標に向かって生き生きと活動する子どもたちの姿を垣間見ることも成果として挙げられる。(全校児童132人の小規模ではあるが、不登校児童0人、コロナ禍の中でも1月20日現在までの欠席者0日数合計20日という数字がそれを証明している。) ・今年度見直された教育課程は、来年度も持続可能なものとして位置づけ、学校教育目標「かがやく瞳、ひびき合う心、ひろげる力」(来年度も継続)に向けて、新たなステージにおけるCHALLENGE(挑戦)により、よりよい方向にCHANGE(変容)していく子どもの姿が期待できそうである。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	愛知県立熱田高等学校	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業デザインを整理し実践することを通して、他教科に生かすことができるデザインを見出した。 研究の中で他教科の授業に生かすことを模索し、教科に共通する授業デザインを構築した。 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点でデザインすることで、それぞれの学習活動の目的や適切な場面が明確になり、学びの質が向上する方向性が確認できた。 日々の授業の中で、知識・技能を活用し、学習意欲が継続的に喚起されるプロセスを充実させるために、「授業デザイン」という考え方は有用であった。 今後の課題として、「評価方法の改善」「問いの工夫」「教科横断的な学びの充実」が挙げられる。
愛知	愛知県立内海高等学校	持続可能な豊かな社会をつくるキャリア教育の推進について～地域産業・資源を生かしたインターンシップを見据えて～	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が本校のインターンシップ・プログラムに参加したことで、より進路意識が高まり、社会に出る上で必要な挨拶や返答の仕方、マナー等を身に付けることができた。特に、インターンシップの事前指導にも重点を置いたことで、受け入れ先での確に責任のある行動ができた。 キャリア教育コーディネーターと企画や運営等で協働し、受け入れ先との連絡調整の段階からアドバイザーとして活用したことにより、より円滑に進めることができた。 「就業体験活動」(1単位)の単位認定については、事前・事後指導、成果発表会などの活動及び事業所での実習を体系的・系統的なインターンシップ・プログラムとして再編成し、単位認定の基準を明確化させた。これにより、評価基準を満たした全ての生徒に対して単位を認定することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校のインターンシップ・プログラムをより充実させるために、キャリア教育コーディネーターとの連携により、事後指導において外部評価を行う場を設定するなど、指導プロセスに改善を加えていきたい。 本研究の成果をSDGsの視点で持続可能な豊かな社会づくりを担う人材育成と更なる地域活性化に向けた取組へつなげていきたい。そのために、地域産業と連携して教育活動を行っている学校間で生徒交流を通じたキャリア教育活動を推進させていきたい。
愛知	岡崎市立広幡小学校	自らの意思で発見・判断・実行できるスーパーソサエティキッズの育成 ～子供が主体的に学び、深め、広げていく学習指導の在り方～	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的」「深める」「広げる」を学習段階として位置付け、学びの価値を感じ、生活へとつながる力となるように、子供の生活経験と絡めた教材開発に努めた。 子供たちが「主体的に学ぶ姿」「学びを深める姿」を具体的にイメージできるようになってきた。それによって、その姿を実現するための手立てを立てられるようになった。 「広げる」に焦点を当てて研究を行ったことで、ただ教科書にあるから教えるのではなく、「この単元の学びの価値は何か」「なぜ今学習する必要があるのか」を見通して単元構想がなされ、教師の子供を捉える力や教材研究の力量が向上した。 子供の主体性を求める前に必要となる教師の主体的な姿が見られ、自ら研究の意味を見だし、ボトムアップの研究とする気概を感じるようになった。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍となり、今まで以上に自ら主体的に判断・決定し、学んでいける子供の育てる必要性を強く感じている。新しい生活様式の中での「対面の教育」の果たすべき役割を明確にし、教科の見方・考え方をどのように働かせるか、また、学びで得た新たな価値を活かし、どのように学びを深めていくのかについて研究していく。 教師が本時の学びとしてどのような言葉や姿を子供から引き出すべきかを明確にした状態で授業を迎えるようにしていく。 本時の振り返りは行われているが、その振り返りを蓄積し、単元としての振り返りを行うことで、学びを統合させていくなど、子供自身が学びの価値を実感できるようにするために、効果的な「振り返り」の方法を考えていく。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	碧南市立大浜小学校	豊かな心をもつ浜っ子の育成 ～役割と責任を果たし、自己有用感を高める活動を通して～	<p><研究の成果・今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究部、地域連携研究部、児童活動研究部の3部会において、手立てを講じることにより、児童の主体的な活動が活発になり、自己有用感の高まりを感じられ、より意欲的に学校生活を送る姿が見られるようになった。 ・地域の方に地域サポーターとして、さまざまな場面で関わりながら学校のカリキュラムを理解していただくことで、今まで以上に、地域の方々の中から支援や協力をいただく機運が高まった。 ・学習リーダーについては、限られた教科や単元においての育成であったので、今後さまざまな教科や単元に広げ、さらに汎用性を高めていくことを研究していく必要がある。 ・今後も新学習指導要領にある社会に開かれた教育課程の実現を目指して、職員一同研鑽を積んでいきたい。
愛知	豊田市立加納小学校	「自分大好き、加納大好き」自分に自信をもち、地域を愛する心を育む ～思考力を明確にした課題解決学習と地域ぐるみの教育を通して～	<p>本実践の成果:1手立てを用いることにより、2の児童像が実現できた。</p> <p>1 手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題解決型の授業を進める。 ②子どもたちの生活や必要感と関連付けた単元の導入を行う。 ③各学年で核となる、思考・判断・表現と言語活動を分析し、教師と児童が確認し、目標とする。 ④単元や各時間の各所で児童自らの変容を確認する場を設け、成就感や自信を積み上げる。 ⑤地域を素材とする単元構想の蓄積と開拓を行い実践する。 ⑥地域学校共働本部の方々との関りで、思いを引き継ぐ。 <p>2 求める児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習(国語科)や生活の中で、自分の成長や良さを見つけ「自分はいいな」と思える子。 ・自分を取り巻く人々や地域との関り(生活科や総合的な学習の時間)からその良さを見つけ「加納っていいな」と感じることができる子。
愛知	大口町立大口北小学校	主体的に対話ができる児童の育成 ～外国語科・外国語活動の指導を生かして～	<p>児童の実態調査として行ったアンケートでは、研究当初は、外国語活動に対して「ゲーム」や「ワイワイした雰囲気」が楽しいという記述がほとんどだったが、直近のアンケートには、「自分の考えが英語で友達に伝わるととても楽しい」(6年生)や「友達にいろいろ尋ねたり、答えたりする活動が楽しい」(5年生)など、対話する楽しさを味わっている記述が多く、主体的に対話する児童の姿が見られるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業以外で、英語を使って話したことはありますか」というアンケートに対し、◎と答えた児童の割合が全校で8%(約50人)上昇した。English Dayなどを活用し、児童が自分の思いや考えを英語で伝えようとしていたことを表す一つの成果といえる。
愛知	愛西市立永和小学校	かかわり合い、共によりよく生きる子の育成 ～主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践を中心に～	<p>本研究を通し「めあて」「問題」「まとめ」「ふりかえり」という学習の段階を大切にすることで、児童の主体性を高めつつ、ねらいに沿った授業実践ができるということが、どの教師も実感することができた。</p> <p>異学年交流などを通した学びの還流を大切にすることで、児童の関わる力が高くなった。</p> <p>一方で実践を重ねながら「何が深い学びなのか」ということについて、最終的な解決ができなかった部分がある。</p> <p>これについては、授業者の思いや授業展開、ねらいなどをもう一度見直す必要があるのではないかと意見が多く挙がった。</p> <p>さらに主体的・対話的で深い学びを実現するための授業実践・児童のかかわりを大切にしたい行事の再編、PDCAに則った研究を続けていきたいと考えている。</p>

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
愛知	瀬戸市立南山中学校	小・中学校連携教育の推進 ～自己肯定感を高められる生徒の育成を目指して～	<ul style="list-style-type: none"> ・小中で同じソーシャルスキルトレーニングを行うことによって、いわゆる中1ギャップを軽減することができた。それに伴い、不登校生徒の出現率が例年に比べて低くなった。 ・小中の教員が合同研修会を行うことで、教員の連帯感が生まれ、「学区の子どもの自己肯定感を高める」という共通の目標を明確に認識することができた。 ・小中の児童会や生徒会が共同企画した災害支援募金活動やあいさつ運動などを行うことで、リーダーとなる子どもたちの達成感や成就感を味あわせられただけでなく、社会貢献をすることの意義や大切さも学ばせられた。また、子どもたちの小中の連帯感を強くすることができた。
愛知	江南市立西部中学校	未来を仲間とともに切り拓く生徒の育成 ～学びを深める協働的な学習を通して～	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が自ら「解決したい」「取り組んでみたい」と思える学習課題の提示方法を工夫することで、授業において学習課題の解決に前向きに取り組んでいこうとする意識が向上した。 ○ 生徒が自ら、自分の考えを見直し、再構築するような工夫をすることで、目的意識をもって他と関わり、もう一度考え直してみようとして学びを深めていくことができた。 <p>2 課題</p> <p>▲「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか」という生徒への問いに対して、学年ごとに分析をしてみると、学年別の傾向が顕著に表れてきており、学年の実態や傾向に応じて重点的に指導する必要がある。</p>
奈良	奈良県立郡山高等学校	学校教育のIT化に関する方法の検証 ～在宅教育期間における動画配信授業を通しての考察～	<p>【背景】高等学校現場は大きな変革の渦中にあり、課題の一つに教育のIT化がある。</p> <p>【きっかけ】コロナ禍により臨時休校が実施された生徒たちに対して、遠隔教育として授業動画作成とインターネットを活用した配信に取り組んだ。</p> <p>【取組】設定したコンセプトをもとに、全ての教員が参加し、生徒のいない教室で競うように動画作りをするなど、驚くべきエネルギーが注がれ、約1ヶ月半の間に600本を超える動画がYouTube「郡高チャンネル」上に配信された。</p> <p>【成果と課題】各動画の視聴回数はパスワードを渡した対象生徒数の数倍に上る。教員のITスキルと経験値は確実に向上し、対面授業が始まった後も授業改善に繋がっている。課題は、カリキュラムマネジメント視点からの再構築と作成スキルの継続的向上、生徒の成果検証を今後に活かす取組である。</p>
奈良	生駒市立光明中学校	感動の風を起そう！2020 ～本校「目指す生徒像」における「次代の担い手として歩む生徒」の育成について、3年間に渡り積み上げている活動を研究する～	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度は、コロナ禍により、学校行事や教育活動、部活動大会やコンクール等の相次ぐ中止や規模縮小等、これまで誰も経験したことない判断等により対応・対策に努めた。ただ、このような現実と向きあいながらも、3年生が自身の高校等への入試を見事に切り抜け、次のステージへと巣立っていった。 ○体育大会は、唯一、全校生徒が一つとなり実施できた。残念ながら保護者や地域への見学を中止し無観客の中での実施となったが、子供たちは全力で競技や応援・運営等に大活躍し、感動を生む取組となった。 ○GIGAスクール構想は、コロナ禍によって一気に加速化した。3学期からは、一人一人が、タブレット端末を手にし学習に取り組んだ。目を輝かせ、クラス仲間同士で教えあう光景が、どの学年でも見られた。今後、さらにICT機器を使った授業や教育活動により、子供たちの学びの意欲をかり立てられるように努めていく。
鳥取	日吉津村立日吉津小学校	学習の定着とメディアコントロールを図るための家庭との協働 ～生活を振り返り、目標に向かってよりよく成長しようとする児童の育成～	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定や達成度の確認など点検項目や達成状況を、学校と家庭で見守る仕組みを作ったことで、家庭学習習慣はもとより、家庭でもメディアコントロールを図ろうと意欲が高まり、改善がみられた。 ・児童の達成状況をデータとして毎月提示することで、児童には目標の自己決定ができ、家庭では、月ごとの達成感が共有されるようになった。 ・保護者の意見を取り入れ、記入しやすく取り組みやすい内容項目になるよう改善したことで共有感が生まれた。 ・家庭におけるメディアコントロールについては、家庭環境や保護者の考えに個人差が大きく、対応について課題は残った。今後、PTA活動と連携して、粘り強く取り組んでいく必要がある。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
岡山	岡山市立足守中学校	保幼小中が連携し、学びの連続性を目指した中学校区の取組	<p>1 成果</p> <p>ア 異校園種間における教職員、保育士の意識・行動の共有が進化した</p> <p>イ 子どもの活動の活性化につながった</p> <p>2 今後の課題</p> <p>ア 中学校区内5校園の更なる情報共有が重要である</p> <p>イ 新規に着任した教職員の意識改革につながる研修が必要である</p> <p>ウ 小中兼務授業の事前打合せの深化が必要である</p>
広島	広島市立鈴張小学校	子どもの心を揺さぶる、学校環境を生かした取り組み	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴は、「地域と一体となり、地域の協力を得ながら教育を展開している」ことである。地域の教育活動への支援が年々増加するにつれ、本プロジェクトを含め体験的な活動が充実するなど、地域に根ざした教育活動を展開することができた。 3つのプロジェクトを地元新聞に掲載することで、地域から大きな関心を持ってもらった。郷土愛の一端を学校が発信できたことが大きな成果であった。 本プロジェクトにより、児童の仲間意識、生命尊重の意識が以前と比べて高まっている。そのことが児童の優しさを大きく育成することに繋がっている。 本物の石窯や実際に観察できる飼育かごやビオトープを製作することで、児童の動植物や食に関する興味・関心が高まる機会になった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> これまでは、教師主導で活動の内容を決め、実践することが多かったため、今後は、児童が課題意識をもち、主体的に解決していくことができるようなプロジェクトにシフトしていく必要があるように思う。
広島	東広島市立中黒瀬小学校	学力向上を図るための「わかる」「できる」授業の創造 ～児童の実態に応じたきめ細かな指導・支援を通して～	<ul style="list-style-type: none"> 学力に課題のある児童への個別指導や授業を支えるための取組を丁寧に行った結果、学力に課題のある児童の「分かってほしい」「できるようにになりたい」という姿が増えるとともに、基礎学力の定着や確かな学力の向上を図ることができた。 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に努めながら、可能な範囲で授業研究を行い、全ての教員が主体的に校内研修に取り組んだ。校内研修で学んだことを自分の授業に生かすなど、授業力の向上を図ることができた。 学力に課題のある児童への指導の手立てをを明確にし、授業後、具体的に検証し、まとめた。さらに、有効だった指導の手立てを分類・整理し、ほかの教員が参考にして追試できるようにした。
山口	防府市立中関小学校	一人ひとりが学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業づくり ～全員が参加したくなる支援の工夫～	<p>授業において、次のような支援の工夫を行い、成果を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入部では、問題を自分ごととして捉えられるように、子どもの思いや願いをもとにめあてをつくるなどの指導の工夫を行ったので、子どもが意欲的に課題解決に取り組むことができた。 展開部では、子ども同士が疑問や分からなさを表出したり、多様な考えを交流したりすることができるように、時間の確保や学習形態を工夫したので、互いの思いや考えを伝え合う楽しさやよさを味わうことができた。 終末部では、子ども自身が学びのよさを実感できるように、自分の学びが学習のめあてに對しどのように迫ることができたのかを振り返らせたので、さらなる学習への意欲をもたせることができた。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
高知	高知市立義務教育学校土佐山学舎	「社会学一体教育」への挑戦 ～土佐山学舎 キャリア教育の推進～	1. 研究のまとめ： 研究テーマは、「社会学一体教育」への挑戦 ～土佐山学舎 キャリア教育の推進～。 1889年(明治22年)、町村制施行に伴い誕生した土佐山村が誕生した。自由民権運動以来の「社会学一体教育」の継承と発展は、キャリア教育の推進によって意義ある研究となった。 2. 研究の成果： 児童・生徒が「ふるさとに誇りをもつ」には、土佐山を中心に学ぶキャリア教育の推進が効果的であった。児童・生徒にとって、学習として企業等とつながることにより、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が育った。 3. 今後の課題等： 土佐山学の推進と英語教育を推進することにより、土佐山学舎から土佐山地区の発展につなげたい。
福岡	鞍手町立新延小学校	よりよい生き方を考える子どもを育てる道徳科学習指導 ～多面的・多角的な思考を育てる交流の工夫を通して～	【成果】 ○ 年間を通して本研究を推進してきた中で、道徳科の授業力向上について、「計画的・継続的な実践」「発問や板書の工夫」「道徳科と他教科等との関連」等についての教員の意識の向上が見られた。 ○ 児童は、日々の道徳科授業を通して、道徳的諸価値について学びを深め、自己を見つめ内省する力が身に付いていった。特に、学校全体で重点を置いた「B: 主として人との関わりに関すること」については、他の内容項目と比べ大きく伸びた。 【課題】 ● 協同学びにおいて、発問や板書の工夫を通して多面的・多角的な交流活動を促すこと、道徳科と他教科等との関連を図る中で児童に道徳的諸価値のよさを実感させることについては、特に若年教員にとっては課題が大きい。今後とも研修と実践が必要である。 ● 自己を見つめ内省する力が児童に身に付くことにより、意外にも道徳的諸価値についてのアンケート結果が前回より低くなることもあるため、今後も継続的に児童の変容を見取っていく必要がある。
福岡	岡垣町立山田小学校	数学的思考力を育てる算数科学習指導のあり方 ～問題のイメージ化と数理に迫る手立ての工夫を通して～	【研究の成果】 ・算数科学習における単元構成や一単位時間の学習過程の在り方が明確となり、全校共通で取り組むことができた。(山田小スタンダードとして、他教科においても実践化・日常化を図っている。) ・問題場面を把握させるための手だてや、自分なりの解決方法を表現させるための手だて等が明確になってきた。 ・本時主眼に迫るための交流活動(ペア対話や全体対話等)の在り方が明確になってきた。 【今後の課題】 ・研究教科を国語科に変え、国語科学習における思考力を育てる学習指導の在り方について究明していく。 ・国語科の研究結果をもとに、他教科での実践化・日常化を図っていく。(山田小スタンダードの深化を図る。)
福岡	遠賀町立広渡小学校	目的や意図に応じて書くことができる児童を育成する国語科学習指導 ～思考・判断・表現を促す授業づくりの支援の工夫を通して～	書く力の高まりが明らかとなった。特に、具体的な視点を持たせたことで、児童が何に留意して書くかをはっきりさせることができた。また、書くことに関わって思考する場面で、思考を可視化するためにワークシートに記述させたり、黒板で操作させたりすることによって、思考が促され、児童が自分で考える姿が見られた。更に、話形を用いて考えを交流することで、お互いの考えを知ることができたり、考えが深まったり広がったりしたことも成果に挙げられる。今後は、児童の実態に合った視点の設定や、本時のねらいに迫るための思考の可視化の更なる工夫が課題として挙げられる。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
福岡	直方市立直方西小学校	確かな学力を身につけた児童を育てる家庭学習指導の一考察 ～昼活動と家庭学習強化週間の取組を通して～	<p>○ 毎日の昼活動において、家庭学習の計画を立てたり、毎月「家庭学習強化週間」を設定したりしたことによって、全学年において80%以上の児童が平日における規定の家庭学習時間を達成することができた。</p> <p>○ 家庭で行う学習が、家庭と学校で共有でき、事前に家庭に協力依頼をしたり、取組の成果を共有したりしたことで、家庭の支援が得られてきているとも考えられる。</p> <p>○ 低学力の児童における家庭学習の習慣が十分ではないが、改善の傾向がみえる。今後も対象とする児童の学習状況や家庭状況を踏まえた継続指導が必要である。また、家庭学習の質を高めるために、児童間で自主学習内容を交流したり、教員間で家庭学習内容を検討したりする場も設定したい。さらには、予習に取り組みさせて授業改善とつなげることで、学習内容の充実を図りたい。</p>
福岡	豊前市立角田小学校	主体的に考えを伝え合い、問題を解決する算数科の授業づくり ～ねらいに応じたICTの効果的な活用の工夫を通して～	<p><研究の成果></p> <p>○ 各領域や学習過程に応じたICTの効果的な活用を工夫したことで、ICTの活用場面や活用方法を焦点化することができ、単元や1単位時間での育成を目指す資質・能力を身に付けることにつながった。特にこれまで課題のあった図形領域では、学力調査の平均正答率を上回る等、学力向上につながった。</p> <p>○ 算数科だけでなく他教科等においても、ICTの効果的な活用について授業実践を行うことで、ICTを活用しながら情報を比較・分類する等して、問題を解決することができ、育成を目指す資質・能力に加えて、学習の基盤となる情報活用能力の育成につながった。</p> <p><今後の課題></p> <p>● 学習の基盤となる情報活用能力がどのように身に付いていっているのかを検証する評価方法を工夫したり、各教科等における「情報」の捉え方やICTの活用場面や活用方法を整理したりする必要がある。</p>
福岡	北九州市立門司海青小学校	各教科等におけるICTを活用した「わかる授業」の創造 ～子ども同士が「対話」を通して理解を深める学習指導法を探って～	<p>【成果】</p> <p>○ 子どもたちが、ICT機器を活用する中で興味・関心を高めて学習に取り組むことができた。</p> <p>○ タブレットPC上で、考えが簡単に共有でき、話し合いが活性化した。</p> <p>○ ICT機器を活用することで、意見を伝えあったり、まとめたりすることが容易になり、話し合い活動が活性化した。</p> <p>○ プログラムを「考え直す」場面が多く見られ、順序だてて考えたり、振り返ったりしながらプログラミング的思考を高めることができた。</p> <p>○ 子どもたちがより良いものを作ろうと試行錯誤しながら活動に取り組むことが増えた。</p> <p>○ 高学年になると順次・分岐・繰り返しを他教科でも意識することができた。ICT機器を使いながらプログラミング的思考を重ねることで、論理的にゴールに向かうプログラミング的思考が成長した。</p>
長崎	長崎市立南小中学校	GIGAスクールを創り出す教職員の挑戦 ～オンライン学習の取組から見えてきたもの～	<p>本校のGIGAスクールを創り出すための研究・実践では、五つの成果があげられる。「学校の主体性発揮」「ゼロからの学びの構築」「教え合い助け合いながら育てた職場の同僚性」「全員での挑戦」そして、「他校への積極的な情報提供」である。県内の公立小中学校の中で、唯一率先してオンライン学習に取り組み、グループウェアを活用したGIGAスクール構想の先行導入をした本校には、多くの学校から問い合わせが続いた。本校のロードマップをまとめた本論文は、他校が実践するにあたり生じるであろう課題や疑問点を分かりやすく伝える資料として、現在ホームページで公開しているほか、要望に応えお渡ししている。今後もより実効性のある「学びを止めない」実践、そして「学びを変える」実践を継続していきたい。</p>
長崎	平戸市立紐差小学校	一人一人の学力を向上させる算数科指導法の研究 ～対話を通して学び合う授業～	<p>(研究の成果)</p> <p>① ヒントカードの効果的な活用で児童の思考の手助けとなった。</p> <p>② 「練り合いの過程」において、ペア・グループ、自由対話等、友達との交流が習慣化し、対話活動がスムーズになり、主体的に学習に取り組む姿勢が見られるようになった。</p> <p>③ 友達の考えを説明させることにより、友達の考えを最後まで聞いたり、相手に伝わるような説明をしたりする力が高まった。</p> <p>④ 友達の考えを理解しようとする心情が育ち、「自己存在感」が高まった。</p> <p>⑤ どの学級でも失敗や間違いを認める雰囲気醸成され、対話を深めることで学力向上につながっている。</p> <p>(今後の課題)</p> <p>自由対話の焦点化や対話の質の向上</p>

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
熊本	上天草市立中北小学校	授業改善を中核とした学校経営 ～「聴き合い・語り合う」関係の構築に培う	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、コの字型の机の配置や、ペア、グループでの対話が日常の授業の中で行われている。また、教師も子どもの目線でしっかり傾聴し、子どものつぶやきは表情の変化をとらえて、他の子どもにつなげることもできている。このような日々の小さな積み重ねが、子ども相互の「聴き合い、語り合う」関係の構築につながっていくと考える。 ・子ども同士で、分からないときに友達に尋ね合ったり、尋ねられた際には丁寧の説明したり、姿が見られ、「聴き合い・語り合う」関係が子どもの中に構築されているといえる。授業の様子においても、「分からない」とつぶやく姿や、教師ではなく、友達の方を向いて語る子どもの姿が増えてきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と子ども双方の「授業観」の変容を図ることが課題である。日々の授業の中で、地道に実践を重ねること。職場の同僚性を活かし、互いにリフレクションを重ねていくことを今後も行っていく必要がある。
熊本	長洲町立長洲中学校	中学校における働き方改革の推進 ～トップダウンとボトムアップによる校務改善を通じて～	<p>【取組の実際】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①年度末に教育課程検討委員会を開催し、総合的な学習の時間や学校行事の見直しをおこなった。 ②部活動実施要項の見直しを行い、朝練の回数や部活動終了時刻の短縮化を提案した。 ③PTA行事の課題を洗い出し、次年度のPTA活動内容を精選し大幅な見直しを行った。 ④校務改善支援アドバイザーによる研修を通じて、教職員の意識改革による校務改善が提案された。 <p>【研究の成果と課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①2018年度の月別超過勤務者(80時間以上)は延べ66人で、2019年度は21人と大幅に減少した。また、45時間以内の職員も増加し、予想以上の改善が認められた。教職員の意識改革とともに、学校行事やPTA行事の見直しや部活動負担軽減が大きな要因と考えられる。 ②ワークショップ研修で職員集団から提案された内容を実現することができた。自分達で考える働き方改革への意識が高まり、まとまりある集団に近づいたと感じた。
宮崎	宮崎市立高岡中学校	郷土を誇りに思い、郷土の未来と自己の生き方を考える生徒の育成 ～地元企業と連携した進学就職イベント「高岡中ゆめパーク」を通して～	<p>【研究の成果】</p> <p>(地域企業) 地域企業の代表の方々との協力体制ができたことで、学校と地域のコミュニティ化につながった。 (生徒) 地元世界的なシェアのある企業がいくつもあることを知り、郷土に誇りと愛着をもつとともに、自身を見つめ、個性の伸長を考え機会となった。</p> <p>【研究の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を図る上で、コーディネーターの育成が必要である。 ・家庭との連携を加え、学校・家庭・地域が連携した学びを生徒のキャリア形成に生かすことができるよう、今後はキャリアパスポートも活用しながら学びと進路設計をつなげていきたい。
鹿児島	徳之島町立山小学校	主体的・対話的で深い学びを構築する学習指導法の創造 ～遠隔合同授業を核とした複式指導の充実～	<ol style="list-style-type: none"> ①研究の成果 <ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識した発表スキルの向上が図られた。また、大人数の中で自分の考えを発信したり、質問できる多くの経験を得て、自信をもつ児童も増えてきた。 ・遠隔合同授業づくりについての打合せを通じて、今後も教員の学習指導力の向上が期待できる。 ②研究の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔合同授業の積み重ねを通じて、問題解決的な学習をさらに充実させ、児童の力によってめあてを解決していける授業づくりを推進していく。 ・通信環境により映像や音声途切れることがあるため、ICTに強い教員でなくても対処できるよう、予め対処法をマニュアル化し、習得しておく必要がある。 ・遠隔合同授業では、児童の細かい反応を見取ることが困難なため、授業前後においても児童の実態把握の共有や意図した働きかけが必要である。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	始良市立帖佐小学校	子供たちの道徳性向上を目指して ～対話で育む帖佐っ子モラリティ育成プランの実践～	<p>【研究の成果】</p> <p>(1) 学校の取組 道徳の時間に多様な行動の選択肢を考え、その根拠について考え・議論する学習を実践することで、その時間に学ぶべき価値についてより深く理解でき、道徳性の向上につながった。さらに他教科での話し合い活動の活性化も見られた。</p> <p>(2) 家庭の取組 保護者が子供の言葉に傾聴し、思いを引き出す対話を大切にできるようになった。</p> <p>(3) 地域の取組 学校・家庭・地域が一体となった取組の一端を担おうとする意欲の向上につながった。</p> <p>【課題】</p> <p>○ 道徳の時間に「対話」を充実させるために、多様な行動の選択肢を考え、意見を交換する手法をとってきたが、全ての教材で有効であるとは言えない。子供が思考を広げ、深めることができる道徳の学習の在り方について更に追究していきたい。</p>
鹿児島	知名町立田皆小学校	子ども一人一人が主体的に学習できる算数科学習指導の在り方 ～互いに学び合い深め合うことのできる授業づくりを目指して～	<p>仮説1 問題の焦点化を行い、明確な見通しを持たせれば、主体的に学習できるのではないか。 仮説1に対する成果及び課題(○は成果、●課題) ○解決方法や考え方について話し合い、板書することによって自力解決を意欲的に行うことができるようになった。 ●解決の手立てとなる見通しを持たせるとき、見通しをどの程度まで持たせると良いか迷う場面があったため、更に研究を積み重ねる必要がある。</p> <p>仮説2 学び合い深め合う場の設定をし、表現力の育成をしていけば、主体的に学習できるのではないか。 仮説2に対する成果及び課題(○は成果、●課題) ○児童の発表に対して、結果の理由を聞くには「なぜ、この答えになったのかな?」、判断の理由を聞くには、「なぜそう思ったのかな?」というような簡単な問い返しをすることにより、児童の思考をつなぎ、児童がより主体的に学習することができた。 ●全体での学び合いでは、少人数での学習のために、多様な考えが児童から出ないことが多くみられた。児童同士の話し合いだけでなく、教師の問い返しにより多様な考えを引き出すようにしていく必要がある。</p> <p>仮説3 子ども自身が自分の言葉でまとめ、振り返る活動を工夫すれば、主体的に学習できるのではないか。 仮説3に対する成果及び課題(○は成果、●課題) ○まとめに繋がる板書することによって、何を学習したのかを自分自身で振り返りやすくなり、児童自らまとめをつくることができるようになった。 ●他者との関わりによる振り返りを書くことが難しい児童へは、学びの過程で児童の変容を促すような言葉かけや称賛・承認をすることが大切である。今後更に教師自身が心がけていく必要がある。</p>
鹿児島	鹿児島市立武小学校	情報や情報技術を適切に活用できる子どもの育成 ～プログラミング的思考を育む授業の創造～	<ul style="list-style-type: none"> ・空職員と児童が教育機器を日常的に授業で活用できるように、ソフトやアプリのマニュアルを作成した。 ・児童の実態調査を行い、意識の変容を分析することができた。 ・情報に関する意識を高めるために、情報コーナーを充実することができた。 ・児童が主体的・対話的に学ぶために、情報機器を効果的に扱う技術を身に付けることができるように、授業での活用場面や活用方法について研修を深めた。 ・保護者にも学校の研究を理解していただくように、学校便りやホームページ等を使って広報した。 ・児童のキーボード入力能力を上げるために、「キーボー島」を利用して楽しくスキルアップできるようにした。 ・情報活用能力を系統的に付けていけるように、教育課程の見直し、修正を行った。

令和2年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	霧島市立国分中央高等学校	高校生の力で地域に元気を ～生活文化科での学習成果を生かした地域連携・地域貢献活 動～	本年度はコロナ禍の中での地域連携活動・地域貢献活動の実施に向けて例年とは違う形で取り組んだ。保育に関する取り組みは直接交流 することができず、メッセージカードを送るなどの形となった。また、国体関係のイベントは延期となった。 国分中央高校フェスティバルinホテル京セラへの取り組みについては、初めて生徒実行委員会を立ち上げ、ホテル側の責任者と打ち合わせや 会場視察を行い、生徒が意見を出しながら企画・運営を行った。新型コロナ感染予防のため、ステージに関しては無観客とし、YouTubeでの生 配信という形で行い、展示については事前に撮影した動画にて紹介する形とし、多くの視聴があった。生徒が高い目的意識を持ち取り組んでい た。
沖縄	うるま市立あげな小学校	自分の考えをもち、説明できる児童の育成 ～教科等横断的な視点を取り入れた対話的な学習活動を通し て～	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えをもち、「書く・まとめる・話す」などの意識の向上が見られた。 ○互いに学び合う力が向上してきた。(気付く、教える、伝える 等) ○根拠をもって説明できる児童が増えてきた。 ○文章の構成(はじめ・中・おわり)を理解し、使おうとする児童が増えた。 ○ノート力(ふり返る力)の向上

令和2年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
神奈川県	神奈川県小学校教育研究会	基礎基本を身につけ、自ら学び、他者と協働し、心豊かに生きる子どもの育成をめざした小学校教育の創造	<p>野比東小学校の取組においては、次のような成果が報告されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの成長 ・児童が授業に積極的に参加し、声を掛け合い、主体的に取り組む雰囲気ができた ・児童が体育行事に積極的に参加し、選手でない児童も共に練習を楽しむ文化ができた ○教師の成長 「学校全体で体育を通して児童を育てるという意識があり、みんなで取り組むことの良さを感じた」という感想などから、教師が共同研究の良さを実感してきたことがわかる。 <p>野比東小学校の取組は、教師が共同研究に取り組み、その成果を確かめ合う機会を得て、次の実践意欲を高めていく良さを示した。本団体研究の主要な成果は、こうした取組を団体研究の成果として共有することにより、各学校が共同研究に取り組む足掛かりとする可能性を示したことである。</p>
新潟	蒲原の夢を育む会	「道徳的価値について実感を伴った理解を促す道徳授業」へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ○会員の実践から、「道徳的価値について実感を伴った理解」を次のような子どもの姿として捉えることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ①これまでの自分の経験や生活を振り返っている。＜自分の経験の想起＞ ②自分の本音や本心に気付いて自分を見つめ、考えを書いたり話したりする。＜本音や本心への気付き＞ ③友達の考えを聞いて、また、授業後、自分の考えはどうであるか感じたことや考えたことを書いたり話したりしている。＜他者の考えを基にした自分の考えの再構成＞ ④道徳的価値の大切さを見出し、よりよく生きる未来の自分の姿を思い描いている。＜未来の自分への展望＞ ○上記のような子どもの姿を促すためには、以下のような手立てが有効であることが分かってきた。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活経験との関わりを想起できるようにする発問、話し合い。 ・身近な郷土資料などの補助教材としての活用。 ・子どもの道徳的価値に対する考えを、授業のはじめと終わりに記述させる。
新潟	学級経営を楽しむ会	人間関係の可視化を通じた学級経営の改善 ～ネットワーク理論と簡易的ソシオグラムによる分析を通して～	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若手教員を中心に、ネットワーク理論と簡易的ソシオグラム、Q-U等の資料を活用した学級経営理論について研修を行った。若手教員にとって、学級内の児童の人間関係や微妙なパワーバランスを詳細に見取ることは難しいが、複数の資料を基に分析を重ねることで、学級集団を見取る力を育てることに繋がった。 ○サークル内で互いの分析について検討し、アドバイスし合うことで、学級経営上の悩みやアイデアを共有することに繋がり、経験年数の少ない若手教員も、安心感をもって学級経営を行うことができた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> △ソシオグラムについては、サンプルの絶対数が少なく、Q-Uのように類型化することが難しい。各学年における理想的な集団の形について、今後も実践を重ねていく必要がある。

令和2年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
新潟	上越市中学校教育研究会道徳部	「自分の考えを進んで伝え合い、考えを深めていく」授業づくり ～「特別の教科 道徳」の実践を通して～	<p>○研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上廣教育アカデミーの協力を得て、4回の研修機会をもつことができた。 第1回 上越教育大学 早川先生(教授)による授業づくり研修 第2回 3学年授業公開及び職員研修と講義 第3回 2学年「学年道徳」の授業公開及び職員研修と講義 第4回 1学年「講師による示範授業」の授業公開 <p>及び「P4C(philosophy for children)」の手法による職員研修公開と講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に「話し合い」の手法を具体的に学ぶ職員研修を行い、「自分の考えを進んで伝え合う」授業のイメージを共有した。 ・授業での生徒の様子や授業の振り返りなどでは、研究主題に迫る生徒の姿の高まりを実感している。特に「自分の考えを進んで伝え合う」について、研究の成果が認められた。 <p>○今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えを深めていく」段階までの高まりを導く手法(思考ツールの活用やファシリテーション形式の授業など)についての研修をさらに進め、研究主題に迫りたい。 ・生徒の考えや姿、行動の高まりを検証する手段について、上廣教育アカデミーや他機関とも連携して研修を深める必要がある。
新潟	新潟市中学校教育研究協議会	生徒の健やかな心身の育成を目指すチーム学校の推進 ～健康教育の実践による組織マネジメントの実現～	今年度は、自校での組織力を活用した実践(方策と成果・課題)レポートを実践概要集としてとりまとめた。各会員の実践を分析すると、「感染症対策」について取り組んだ実践校が全体の35%を占めている。これは、各会員が自校の健康課題に対して築き上げてきた組織マネジメントを生かし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に自信をもって迅速に対処していると考えられる。また、過去の実践データを比較すると、各会員の実践内容に大きな変容が見られた。これは、自校で抱える多様化する健康課題を的確にリサーチし、他校の実践を参考としながら追加や修正が加わっているものと考えられる。これまで継続して取り組んできた成果を改めて実感することができた。
静岡	三島市理科教育推進チーム	中学校理科教員の実験技能を高めるための方策 ～成功率が低い実験を100%成功させるための改善プランの開発と実践～	<p>研究の成果:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三島市内の全7中学校から成功率の低い実験を抽出し、三島市理科教育推進チーム中学校部がそれらの実験を成功させるための改善プランを開発した。年間4回のワークショップを開催して中学校理科教員の実験技能を向上させた。 ・銅の酸化実験では加熱した試料に空気を送り込むことで4:1の定比例の法則に近づけた。細胞分裂では試料から酢酸をエタノールで確実に抜くことで細胞分裂の中期段階を観察できた。電熱線の発熱実験ではカップヌードルの容器を利用することで完全なジュールの法則を導いた。気体の発生実験では小型の醤油容器を利用することで3種類の気体を一斉に発生させた。 ・コロナ禍ではオンデマンドによる理科実験を5回配信し、臨時休業中でも理科の興味が止まらないようにした。
愛知	愛知県立尾西高等学校 オンライン学習支援推進委員会	新型コロナウイルス感染症禍における高等学校の取り組みとオンライン学習支援の推進に係る研究実践	<p>研究の成果:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを用いた学習に対する抵抗感の減少(教員・生徒ともに) <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇等の課題の工夫(従来のプリント形式から、動画等を活用した課題の提示) ・オンラインを活用した大会が全国的に普及した際に、参加への理解が得やすくなった。 <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間業者の動画教材では本校の生徒の学力と合わない部分が多い。 ・通常業務を行いながら休校期間同様のオンライン化を推進するためには業務時間の確保が困難。 ・個人情報取り扱いの規定が従来のままでは、オンライン化を進める際の障壁となる場合があるので、現状に合わせたセキュリティポリシー等の策定が必要となってきた。

令和2年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
愛知	西春日井地区小中学校校務主任会	未然防止を目指した安全・安心な学校づくり ～コーディネーターとしての危機管理マニュアルの活用と「対応フロー」の作成を通して～	近年の学校や児童生徒等を取り巻くさまざまな安全上の課題の増加を受け、各学校の危機管理マニュアルを改善し実効性を高めることが、事件・事故の未然防止につながると考え、本研究に取り組んだ。 【成果1】 危機管理マニュアルの内容を職員に周知するための取組により、職員のマニュアルへの理解の深まりが見られ、災害に対する危機意識を高めることができた。 【成果2】 「対応フロー（緊急時に対応するためのフローチャート）」の作成を通して、緊急時の対応の仕方が明確で分かりやすくなり、緊急時における活用が期待できるようになった。 【成果3】 校務主任の「学校安全コーディネーター」としての視点を意識した働きかけにより、安全・安心な学校づくりに対する児童生徒や職員の意識を高めることができた。
大阪	東大阪市立小学校社会科教育研究会	子どもがつながる”人・社会とつながる、学びがつながる、未来へつながる”社会科学習 ～豊かなコミュニケーション・協同を追求して～	大会主題のテーマである「豊かなコミュニケーション」をどう生み出していくかについて検討し、実践を重ねている。令和2年度はコロナ禍でのコミュニケーションツールとしてiPadを積極的に活用し、ロイロノートを用いた授業づくりを推進している。本市の2つの小学校において、5年生森林の単元で研究授業を録画し、後日委員で動画を視聴しコメントを記入する方法で、研究テーマについて整理分析を進めた。子どもたちは、iPad操作にも慣れ、友だちの考えを知りながら自分の考えを深める様子が見られる。今後は、ICT活用場面と教師の役割、評価をどうするかなどを研究・精査し、次年度に向けて成果を出していきたい。
山口	山口県立柳井商工高等学校 まちづくりプロジェクトチーム	東京2020大会を経糸と緯糸で織り上げよう!! ～山口県の地域資源を生かした他学科連携による2020人機織りプロジェクト～	成果Ⅰ 3校(柳井商工高校、厚狭高校、周防大島高校)の学科間連携による取組は、知的財産権→テキスタイルデザインの開発→藍染→整経→機織りチャレンジと話題性は大きかった。地域や小学生も参画し、オール山口の取組となった。 成果Ⅱ 学科間連携を実施して、どのくらい能力が伸長したかを各学科の生徒に5段階で自己評価を行った。各学科とも4月当初に比べ、すべての能力において上がったと評価した。 成果Ⅲ 連携した工房の方から「地域と高校の強みを最大限に生かして力を合わせて形にしていくことに感動しました。地域活性化に高校生の若い力が加わることは力強い。」という意見をいただいた。外部評価は肯定的な意見が多かった。

令和2年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
北海道	函館市立港小学校	カリキュラム評価(学校評価)を核とした学校改善を目指して～「これまで」と「これから」を考える組織マネジメントの推進～	<p>1 研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初に、カリキュラムのグランドデザイン、カリキュラム評価、児童アンケートを示したことにより、校長の経営方針の浸透が図られ、教職員・児童の両者が目標に向かって教育活動を実践していく姿が見られた。 ○ 校内研修の抜本的な見直し、メンター研修の取組により、教員一人一人の学ぶ意欲が高まり、学習指導要領への理解や自身の資質・能力向上につながる学びの姿が多く見られた。また、自分事として学校の組織づくりや学校運営に関わろうとする主体的な学校経営参画意識が高まった。 ○ 分掌業務、特別委員会の再編により仕事量の分散化・平準化が進んだ。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● PDCAサイクルでカリキュラム・マネジメントを推進するには、教職員はもとより、保護者・地域の方と熟識しながら「児童に育てたい資質・能力」「重点実践事項」を毎年設定し、実践・評価していける仕組みの構築が必要である。
宮城	美里町立小牛田小学校	ふるさと美里町のよさを発見し、明日のよりよい姿を考える心を育む指導の一試み ～第6学年総合的な学習「美里町再発見」の実践を通して～	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年12月22日に、6年生29名が、「美里町再発見」について、それぞれにまとめたものをポスターセッションの形式で、保護者向けに発表した。美里町の未来について、自分達が主体となって、ふるさとのよさを守っていききたいという内容が多かった。 ○ 他地域と比較しながら、自分達のふるさとのよさについて、より一層広い視野で見つめ、深く考えようとする姿が育ってきた。いろいろな教科と関連させながら、調べ学習を進めることができるようになってきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方々との関わりの中で、地域の伝統や文化、自然を守り、継承する人材として育つ経験を積ませていきたい。現状では、コロナ対策で難しい状況である。今回の学びを生かして、いつの日か、それぞれの立場で実践していきいたいところである。
山形	大江町立本郷東小学校	外国語でのコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせるための工夫 ～スモールトークを軸とした授業づくり～	<p>英語で相手に対応したり自分で考えて質問したりできるようにするために、スモールトークを軸とした授業を行い、既習単元の内容の効果的な接続のあり方を考察した。</p> <p>毎時間8分間程度行った日々のスモールトークでは、既習単元との接続を第一に考え、児童の会話の中に既習の内容が盛り込まれるようにした。また、既習単元のフレーズを使い、教師が毎時間3分程度児童に質問をしたり、みんなで英語で伝えたいことを共有し既習事項で伝えられないか検討したりすることで、常に既習単元の内容を維持しながら授業を進め、スモールトークに既習事項を生かすことができた。</p> <p>検証のため、スモールトークを軸とした授業をする前と後にスピーキングテストを行い、発話量や会話内容を比較した。その結果、多くの児童で1分間あたりの相づちの数や関係した質問の数が多くなった。また、相手に対応した質問を返すことができるようになった。さらに、当初英語でやり取りを続けられる子はいなかったが、本研究実施後には約半数まで増加した。</p>
山形	鶴岡市立鶴岡第四中学校	子どもが主体的に活動するための理科室の環境整備と授業スタイルの構築	<p>二学期末に授業に関してのアンケートを実施した。授業の意欲度と理解度を◎、○、△、▲の四段階で回答するアンケートを実施した。100を基準として、◎評価に+2、○評価に+1、△評価に-1、▲評価に-2としたものを全校分集計したところ、意欲度は1学年では171.4に、2学年では152.6に、3学年では167.7に変化した。◎、○の生徒が全校生徒の98.7%を占めていた。理解度は1学年では144.9に、2学年では117.4に、3学年では132.4へ変化した。◎、○の生徒が全校生徒の94.0%を占めていた。</p> <p>二学期末の生徒の記述には、「テストに出やすいところを教えてください」という声が多く、「授業がわかりやすいし、わからなくても聞いたら教えてください助かる。」「授業の始めに、先生が解説をしながらワークをするのを続けてほしい」などのコメントが書かれていた。単元が難しくなり満足度が下がった生徒もいたが、例年よりも評価は高かった。これからも継続して実践を積んでいきたい。</p>
神奈川	神奈川県立川崎高等学校	時事英語の授業を構築する ～学校設定科目「ニュース英語入門」の授業に関する一考察～	<p>本稿ではニュース英語入門という授業を構築するにあたり、英文ニュース記事の選択・教材化への手順、発展的な授業展開例について論考した。</p> <p>2020年年初からは、「新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19と略す)」に関するニュースが世界を賑わした。筆者は、COVID-19がどのように伝えられているか、また、如何にしたら感染を防げるかという2点に絞って、英字新聞のみならず、日本の新聞(主に読売新聞)でも情報を収集し、英語の授業に、英文とその内容の補足説明となる日本語記事をA4プリントにまとめ、速読用教材として利用した。</p> <p>今回、この論文を掲載していただいたことを励みに、主に新聞などのニュース英語を今以上に授業に活用していきたいと考えている。</p>

令和2年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
新潟	新潟市立亀田小学校	「深い学び」を実現する算数科の授業改善アプローチ ～知識構造の変容と学習過程における「必要な学び」に着目して～	小学校算数科における「深い学び」の概念とそれを実現するための重要な要素について、授業実践を通して次のことを明らかにした。 ①算数科における「深い学び」は、「知識構造の変容」に着目すると、算数の「知識の再構成」と焦点付けて捉えられる。「知識の再構成」は、学習内容の接続理論(金子, 1989)を援用することで具体化することができる。 ②実際の授業における課題設定場面では、「既習事項と関連付けて追究すべき対象を捉える学び」を実現するために、既習から未習の問題場面を自然とつくり出すことが、教材構成を図る上で重要となる。また、課題追究場面では、「互いの追究に関心をもって対話し、互いの考えを関連付ける学び」を実現するために、子どもに“数学的な発見”を促し、話し合うべき論点を明確にすることが、対活動を促進する上で重要となる。
新潟	糸魚川市立能生中学校	「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導 ～自己調整を図る生徒を育成するための英語授業デザイン～	本研究は、初級英語学習者である中学生を対象に、「自己調整」を図る生徒の育成を目指した授業デザインを構成することが、英語学習への意欲を喚起し、英語力の向上につながるのかを検証した。 研究結果として、「自己調整」を図る生徒の育成を目指し、ICTを活用した英語授業を展開し、単元振り返り活動を継続することが、学習者の学習意欲、ならびに英語力の向上につながる事が明らかになった。また、生徒の情意面について、一人一人に対して丁寧なフィードバックを与えること、そして、そのフィードバックを生かして、次の単元の学習に向かう機会を与える、という一連のサイクルが生徒の「英語の資質・能力」と「英語を学ぶ意識」の向上に対して有効に機能した結果であると考えられる。
新潟	小千谷市立千田中学校	自分事として物事を捉え、根拠をもとに議論し、生き方を考える生徒の育成 ～思考ツールを活用した多面的・多角的に考える授業づくり～	【研究の成果】 ・スケールを用いることで、授業の導入において、教材を自分事として捉え、自分の立ち位置を明らかにすることができた。 ・教師の明確な意図による中心発問や補助発問により、多面的・多角的な見方や考え方を共有することができ、生徒に獲得させたい道徳的価値に迫る授業展開につながる事が分かった。 【今後の課題】 ・教師がファシリテーター役となって生徒の考えをつないでいくことで、生徒がより主体的に取り組み、さらに深い学びとなる事が考えられた。教師が、生徒の記述や発言をどう捉えるかが課題である。 ・手立てなどの表面的なものだけでなく、生徒の発言や記述を追うことで道徳的価値の獲得について見取り、そこからさらに工夫を積み重ねていく必要がある。
長野	駒ヶ根市立東中学校	所属することが楽しくなる美術部 ～アートを多岐に考える活動～	「所属することが楽しくなる美術部」という研究テーマで様々な実践を行った結果、美術部に所属している生徒たちは、「もっと上手になりたい」「もっといろいろな表現をしたい」等、向上心を持って活動に取り組んでいる。また、新年度に入学した部員が20名を超え、総部員数が43名になった。これは、学校規模(全校生徒187名)からすると、かなり大人数の部活動で、美術部が校内で一番部員数が多い。人数が多いと活気があり、美術室では熱がある取り組みが繰り広げられている。公募展に応募した作品が、県内で特選に選ばれたり、全国で3位の賞をいただいたりと、成果を上げている。絵画、立体制作だけでなく、刺繍などの手工芸、映像作品などにも活発に取り組む姿があり、今後、更に活動の幅を広げることができるのではないかと期待している。生徒たちは美術部に所属していることに誇りを持っていることが、一番の研究成果と考えている。
長野	松川町立松川中央小学校	モモさんの命の授業 ～命の大切さに気づき、「生きる」ということを考え続ける学び～	令和2年度は、モモさんを受け持った以来(10年ぶり)の1年生の担任となった。 「モモさんの命の授業」は、3・4年生を対象に実践を積み重ねてきたので、1年生対象に行うのは初めてだった。その上、新型コロナウイルス感染症の流行により通常の学校生活を送ることができない中で、第1回目の「モモさんの命の授業」は、令和3年1月28日に、モモさんのお母さんを招くことができないまま初任者への授業公開を兼ねて行った。 思いの他子どもたちは、モモさんと同じ「1年1組」ということもあり、モモちゃん人形をまるで生きているかのように大事にしてくれている。休んだ人の机には籠を置き、モモちゃん人形には給食を食べさせてあげている。

令和2年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
愛知	愛知県立旭丘高等学校	多角的視点に立つ歴史問題対話の試み ～日韓高校生の交流事業の実践から～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓の高校生が歴史問題について対話をする事で、双方の国の主張の違いの背景を理解し、互いに「相手の主張にも一理ある」ことを確認しあうことができた。 ・日韓関係の悪化が叫ばれる情勢下であったが、韓国訪問後、韓国に対して「よいイメージ」を持つ者の数が3倍に増えた。 ・以上から、今回の事業が日韓関係発展のために効果的であったことがうかがえる。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓の歴史問題の対立は、日本人が「当時の自分」の目で歴史を見るのに対し、韓国人が「現在の自分」の目で見ていることで生じている。日本人にとっては、対話や討論による「あるべき歴史の姿」の考察、韓国人にとっては、歴史を客観的に分析する視点が大切となる。
愛知	愛知県立岡崎北高等学校	英文法指導におけるICTの活用方法と実践 ～Power Pointを使った効果的な文法指導について～	<p><主要な研究成果></p> <p>本研究では、英語の授業でコミュニケーション能力を育成する上での英文法の扱い方について、PowerPointを用いることで、その文法事項の使用場面の想起した指導をすることができた。また、使用場面に基づいた文法指導により、授業内におけるコミュニケーション活動に割く時間を確保することができた。その一方で、全ての文法事項について、この形で指導できたわけではなかったことに加えて、生徒が書いたスピーチやエッセイを見ると、その文法事項の定着が不十分であった点も複数みられた。コミュニケーション活動における文法事項ということを念頭におきながら、より効果的な指導法を模索したい。</p>
鳥取	米子市立加茂中学校	SDGs達成の担い手となる生徒の育成 ～世界農業遺産のESD教材開発を通して～	<p>1・研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの郷土に関心を持ち、その良さを発見しようとする意欲をもつ生徒が増えた。 ○農業に対する生徒のイメージが変わり、持続可能な農業に対して明るい展望をもつことができた。(授業後にとったアンケートでは、授業前に比べて、農業にとっても関心があると答えた生徒が12%、関心があると答えた生徒が44%と大幅に増加した。) ○話し合い活動や調べ学習に対して、積極的に取り組む生徒が増えた。自分の提案に対して、はっきりとした根拠を示して説明することができるようになった。 <p>2・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今回の取り組みが、個人の研究として終わらず、学校全体や米子市の共通したものになるよう継続していきたい。
山口	下松市立公集小学校	指導と評価の一体化を図る道徳科授業の5つの工夫	<p>研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業づくりの視点から 評価チェックリストや道徳ノートの活用により、授業者が児童一人ひとりの学習状況を確認する手立てを意識した授業が行えている。また、児童による自己評価が一目で分かる二次元マップなどを振り返りに活用し、授業改善につなげることができている。 ○組織的な取組の視点から 管理職の授業参加や他教員との協力的な授業実践により、担任は普段と違う角度から児童の新たな一面を発見できている。評価チェックリストの全校的な活用により、具体的なフィードバックが得られやすくなっている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 質の高い道徳科授業を行っていくために、今後も学習指導過程や指導方法の改善に役立つ多面的・多角的な評価について継続的な取組を進める必要がある。

令和2年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
徳島	徳島県立鴨島支援学校	怒りの感情への対処に困難を抱える発達障害児の不適切な行動に対する支援の在り方について ～小集団での学習活動を通して～	<p>【研究の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適切な行動のある発達障害児の実態把握では、特性と関連した自己中心的な言動や誤解から他者とのトラブルに発展することがわかった。 ・不適切行動の原因の1つに、適切に自分の意見を述べるスキル、他者の意見を聞くスキルの未学習や学習不足が推察された。 ・小集団での実態に応じた啓発教育とSGEを含む課題解決学習の介入パッケージを実施したことで、不適切行動の減少及び適切行動の増加、自尊感情が向上する可能性が示唆された。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の研究では小集団の活動場面における行動の変容を分析した。学校における不適切行動及び適切行動の変容を分析していない。今後、小集団での実践が学校における不適切行動及び適切行動にどのような影響を与えるのか検討していくことが重要だと考える。
香川	高松市立桜町中学校	非連続テキストを根拠にテキスト「竹取物語」を読む ～古典学習におけるICTの有効利用について～	<ul style="list-style-type: none"> ・古文だけではわかりにくい図絵の細かい部分を見ることによって、根拠を得、想像力を働かせ、文章の内容を理解していくことができ、テキストを読み進める楽しさを学習者が知ることができた。 ・絵を見るのが苦手な学習者もいるので、絵巻を見る視点を指導者がある程度示すと話し合いがスムーズに運用される。例えば、人物の様子、住居、周辺の有様、貴公子の家来の表情などである。 ・テキストと非連続テキストの間にもうひとつ口語訳というテキストをはさんだが、二段階の学習法が学習者にはややこしく感じられ、すっきり理解できなかった。この3つの学習材のつながりをどのように提示するか、これも指導者が明確に筋道立てて提示するべきである。
宮崎	延岡市立恒富小学校	「考え、議論する道徳」への質的転換と普及 ～児童の思いを可視化する手立てを通して～	<p>成果○、課題●</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 心情円盤やネームカードなどの道具を活用して児童の思いを可視化する手立てをとることで、児童がより自分自身との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるようになった。 ○ 何をどのように可視化すれば、より「考え、議論する道徳」を展開でき、ねらいに迫ることができるのか実践を蓄積することができた。 ○ 指導教諭として、「考え、議論する道徳」への質的転換が不十分な要因を洗い出し、その解決のために校内だけでなく、校外にも普及できた。 ● 本実践は、「児童の思いを可視化する手立て」に焦点を当てて実践、検証を重ねてきたが、「考え、議論する道徳」への質的転換の手段は他にも様々ある。継続していくとともに、新たに実践にも取り組む必要がある。 ● 研修会を中心に普及に努めてきたが、広報誌作成や資料のデータ化など、より広く普及させる方法を模索していく必要がある。